

## 90名が新たに入省

## 松本文部科学大臣が職員に訓示「日々挑戦を」

文部科学省は4月1日、2026年度新規採用職員の入省式を文科省内で執り行った。

今年度、文科省には総合職45名、一般職45名の計90名が入省した。式では、松本洋平文部科学大臣を前に入省者が服務の宣誓を行い、入省者を代表して石井睦久さんがあいさつ。

石井さんは「複雑な社会課題に取り組み中で、私たちは多くの困難に直面することになるでしょう。そのような時も熱意を持ち、また、私たちも生涯を通して業務や生活から学び成長することが必要だということを忘れずに、精進して参りたい」と力強く語った。

これに対し、松本大臣は訓示で「文部科学省は『強い日本』『豊かな未来』の礎を築く組織。国民一人ひとりが未来に希望を持てる社会を形成すべく、さまざまな政策に取り組みんでいるが、本日出省された皆さんは初心を忘れず、文科省のチームの一員としての新しい日々々に挑戦してほしい」と激励した。

## 松本大臣の訓示概要は次のとおり。

「文科省が取り組む課題は実に多様であり、国内外の社会情勢も日々刻々と変化しており、解決の難しい課題が山積する我が国において、長期的視野を持って国民のための政策をつくりあげていくことは並大抵のことではありません。私自身、大臣を拝命してから3つの誓いを立て、全力で取り組んでいます。

一つ目は現場主義を徹底していきたい、ということ。我々がつくる政策の先には国民生活があり、国民の目線をしっかりと理解しながら、政策を進めていただくことが重要だと考えています。

二つ目は、手段と目的を明確にするということ。ありとあらゆる政策を進める上で、目的と手段を明確にし、それを決して取り違えることなく、国民生活が少しでも豊かになるよう、政策をつくりあげていきたい。

三つ目は、誇りを持って仕事をしたいということ。我々が進めている政策は、これから10年後、20年後の日本を大きく変えていくような大きな決断となることもあるかもしれません。日本の将来や、いま目の前に起きている変化をしっかりと見つめながら、文部科学行政を一緒につくっていきましょう。仕事を一緒にするのは新たに学ぶことが多く、圧倒される日もあるでしょう。時には地味に思える仕事もあるでしょう。それでもそうした日々の積み重ねとたゆまぬ努力が国の政策につながることを忘れず、目の前の仕事に真摯に精一杯取り組んでいただきたい。あらためて、本日出省された皆さんを心から歓迎するとともに、文部科学省職員として高い志と強い気概を持って活躍されることを心よりご期待申し上げて、私からの訓示とさせていただきます」



「真摯に職務にまい進する」と誓いの言葉を述べる入省者代表(旧庁舎6階第二講堂)



「文部科学行政を一緒に作り上げていこう」と呼びかける松本大臣